

■事故の概況

人と車参照



事故類型：人対車両

当事者A：普通乗用車 20歳代 女性

当事者B：歩行者 60歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、通勤途中にコンビニの買い物を終え、前向きに駐車していたA車に乗り込み、駐車場から出ようとすぐに後退を始めました。この日は午後からの出勤で少し急いでいたことや駐車場が広くて周囲が閑散としていたため、後方の安全確認を全くしないで、ハンドルを左に切りながら時速約5kmで8mほど後退し、そこから今度はハンドルを右に切って1.5mほど前進したところ、突然ゴトンと何かに乗り上げた衝撃を感じました。とっさにA車を停止しドアを開けたところ、A車の車底部と地面の間に（右側の前輪と後輪の間）上半身を出している状態の人が倒れているのを発見し、初めて人を轢いてしまったことに気がつきました。

一方、Bは、自宅から200mほど離れたコンビニでの買い物を済ませ、左手で杖をつきながら出入り口付近に駐車していたA車の後方をゆっくりと歩いていました。その時突然車が後退してきて、とっさに右手を車の窓上部に押し付けながら2回ほどバンバンと叩き運転者に注意を促しましたが、A車は停止することなく後退を続けたのでそのまま押し倒されてしまいました。その後、A車が前進したため、今度は右前輪で右手と左足を轢かれ全治84日の重傷を負ってしまいました。

■ 事故から学ぶ

この事例は、Aが駐車場からバックで出る際、後方の安全確認を全くせずに後退したことが主な原因です。出勤途中で急いでいたことや駐車場が広く周囲が閑散としていて容易にバックできると思い込んだことから周囲に対する注意がおろそかになったと思われます。駐車場から後ろ向きに出るときに、後方を見ながら後退するという当たり前のことができていれば事故は容易に防げたものと思われます。

一方、Bは普段から杖が必要なほど歩行が困難であり、たとえ低速であっても突然後退してきたA車を避けることは難しかったと考えられます。

四輪運転者は、交通弱者の存在を常に念頭に置きながら安全運転を心がけるべきでしょう。